

- 寧(ねい・和田) → 寧(やすし・和田わだ、和算家) B 4 5 6 1
 寧(ねい・紀き) → 竹堂(ちくどう・紀、絵師) D 2 8 6 1
 寧(ねい/やすし・星野) → 良悦(りょうえつ・星野、医/身幹儀製作) G 4 9 5 2
 寧(ねい・松井) → 中務(なかつかき・松井、西本願寺用人) E 3 2 3 3
 寧(ねい・市川) → 晩斎(ばんさい・市川いちかわ、藩儒) H 3 6 6 9
 寧(ねい・伊古田) → 檜陵(ゆりりょう・伊古田いこだ、産科医) E 4 6 0 2
 寧安(ねいあん・岡田) → 確堂(かくどう・岡田おかだ、藩士/儒者) K 1 5 3 2
 寧一(ねいいち・南小柿) → 寧一(やすかず・南小柿みながき、医者) B 4 5 1 2
 寧一(ねいいち・市場) → 通笑(つうしょう・市場、黄表紙/噺本) 2 9 0 2
 寧一(ねいいち・郷) → 寧一(やすかず・郷ごう、歌人) F 4 5 0 7
 寧一館(ねいいつかん) → 魯斎(ろさい・酒井さかい、藩士/俳人) B 5 2 5 6
 寧永(ねいえい;名) → 法守親王(ほうしゅしんのう、仁和寺門跡/歌) B 3 9 6 3
- 3451 **寧我**(ねいが・田村たむら、名;令終、水谷基命男/) **1770-1851**82歳 田村光武の養嗣子、儒;桃白鹿門、
 經史に精通、出雲松江藩儒;馬融・鄭玄の古注を園山西山と講義、詞芸を得意とす、
 「寧我詩文集」「寧我先生三体帖」著、雨森精斎・河野天鱗・桃節山らの師、
 [寧我(;号)の字/通称]字;子朗、通称;弥一兵衛
- 子朗(しろう・田村) → 寧我(ねいが・田村たむら、藩儒/詩文) 3 4 5 1
 寧氣(ねいき・御船) → 寧氣(やすおき・御船みふね/矢部、神職/国学) B 4 5 0 8
 寧卿(ねいけい・浜嶋) → 元成(もとなり・浜嶋はしま、文筆家) D 4 4 6 3
 寧卿(ねいけい・勝田) → 鹿谷(ろっこく・勝田かつた、藩の儒者/詩) C 5 2 1 5
 寧卿(ねいけい・林) → 壮軒(そうけん・林はやし、幕府儒官) H 2 5 1 1
 寧景(ねいけい・漆原) → 漆園(しつえん・漆原うるしばら、絵師/詩人) U 2 1 4 8
 寧固(ねいこ・堀部/曲直瀬) → 一溪(いっけい・曲直瀬まなせ、医者) G 1 1 9 4
 寧固(ねいこ・恵美) → 三白(さんぱく・恵美えみ/堤、医者) M 2 0 6 9
 寧固(ねいこ・内山) → 眞弓(まゆみ・内山うちやま、歌人) 4 0 3 3
 寧恒(ねいこう・野沢) → 酔石(すいせき・野沢のざわ、幕臣/詩人) 2 3 7 5
 鶴鷗外史(ねいこうがいし) → 白賁堂(はくひどう・秋山/鈴木、藩儒) D 3 6 8 4
- 3452 **寧斎**(ねいさい・奥野おくの、名;篤之) **1736-1803**68 近江大津の儒者/竹林流弓術家、「朱子語類考」著
 寧斎(ねいさい・河南) → 文平(ぶんぺい・河南かわなみ、儒者/詩人) G 3 8 4 1
 寧斎(ねいさい・壺井) → 益春(ますはる・壺井つばい/山本、役人/国学) Q 4 0 9 8
- 3454 **寧山**(ねいざん;道号・禅慧ぜんね;法諱、俗姓;桐山) **1772-1838**67歳 美濃の臨濟僧;
 1780(9歳)江月寺大敬門;出家/1792豊前自性寺で海門禅恪門/随従;1813印可を受、
 1814豊前自性寺住、1829京の妙心寺469世、「寧山禅慧禅師遺録」、
 [寧山禅慧の号] 幽趣庵/無為、寂光普照禅師
- 寧子(ねいし・西園寺) → 広義門院(こうぎもんいん、後伏見妃/歌) 1 9 9 6
 寧寿堂先生(ねいじゅどうせんせい) → 涼閣(りょうかく・新宮しんぐう/古河、蘭医) G 4 9 8 7
 寧処(ねいしょ・岡田) → 南山(なんざん・岡田、儒者) J 3 2 0 8
 寧親(ねいしん・津軽) → 寧親(やすちか・津軽つがる、藩主/俳人) G 4 5 2 7
 寧静[子](ねいせい[し]) → 磐溪(ばんけい・大槻、儒者/詩人/洋学) 3 6 4 0
 寧静館(ねいせいかん) → 清庵(せいあん・建部たけべ、蘭方医者) H 2 4 1 8
 寧静居(ねいせいきよ) → 善水(よしみ・瀬見せみ、大庄屋/歌人) H 4 7 2 8
 寧静楼(ねいせいろう) → 通静(みちきよ・江幡えはた、儒国学/歌人) I 4 1 2 2
 寧泉(ねいせん・入江) → 東阿(とうあ・入江いりえ、暦算/軍学者) 3 1 7 0
 寧道(ねいどう・箕作) → 奎吾(けいご・箕作みつくり、洋学者) F 1 8 5 5
 寧斐(ねいひ・大島) → 斐(あきら・大島おおしま、武家/歌人) H 1 0 2 4
 寧夫(ねいふ・安田) → 石牙(せきが・安田/早川、医者/俳人) D 2 4 3 6

- 寧文(ねいぶん・都築) → 虚堂(きょどう・都築/都筑つづき、儒者) P 1 6 9 4
- 3456 寧浦(ねいほ・岡本おかもと、名; 惟密/僧名: 大年、僧弁翁男) 1789-1848⁶⁰ 土佐真宗僧/儒学者に転向;
土佐藩教授、「寧浦文集」「処緇流論」著
- 寧野居士(ねいやこじ) → 壽庵(じゅあん・七条、医者/詩/紀行) W 2 1 4 4
- 寧雄(ねいゆう・細井) → 寧雄(やすお・細井ほそい、絵師/和算家) B 4 5 0 3
- 寧楽園(ねいらくえん) → 睦斎(ぼくさい・山口、和漢学者/教育) D 3 9 1 4
- 寧利(ねいり・細井) → 寧利(やすとし・細井、寧雄男/和算家) E 4 5 0 2
- 3457 根香来不器用(ねからぶきよう)?- ? 江戸狂歌: 本町連、1785赤良「後万載集」1首入;
[天のかは空色衣あらひあげ織姫のりをつけてほしけり]
- 3469 根岸法師(ねぎしのほうし) ? - ? 江戸狂歌: 1785「後万載集」1首入
- 3458 寢言先生(ねごとせんせい・夢中散人、深川散人)?-? 1770洒落本「辰巳之園」著、
石橋一麿説あり? → 一麿(いちまる・石橋一丸、俳/洒落本) E 1 1 3 1
夢中山人と同一? → 夢中山人(むちゅうさんじん、洒落「南閨雑話」) 4 2 9 1
- 根ヰ(ねじめ) → 水際根ヰ(みざぎわのねじめ、狂歌) H 4 1 0 6
- 3470 寢小弁垂高(ねしょうべんたれたか)?- ? 江戸狂歌: 1785「後万載集」1首入、
[口ごはきふとるはづなのくつはどめかう骨折りて居るもいけ好ずき](後万載; 737、
太藪ふとると河骨を生花にせんとて響くつわどめにいけかねる人を見て詠む、
響どめは水盤に使用の響形金属器具/強情な名馬生月を太い端綱の響で骨折る姿連想、
骨折っても生ける生花好きを評す/縁語掛詞を多用)
- 禰助(ねすけ・由良) → 箕山(きざん・由良ゆら、医/儒者) K 1 6 5 7
- 鼠小僧(ねずみこぞう) → 次郎吉(じろきち・鼠小僧、義賊) Q 2 2 4 8
- ねね(寧子、杉原定利女) → 高台院(こうだいいん、秀吉正室/歌人) K 1 9 4 8
- ねね(栄・保科、黒田長政室) → 長政室(ながまさのむね、黒田、連歌) F 3 2 8 0
- 子之吉(ねのきち・鈴木) → 松江(しょうこう・鈴木、藩儒) I 2 2 7 8
- 子之吉(ねのきち・信太) → 意舒(もとのぶ・信太しだ/しのだ、藩士/砲術) K 4 4 0 8
- 子之吉(ねのきち・山崎) → 恭禮(たかひろ・山崎やまさき、藩士/尊攘運動) 2 7 1 1
- 子之次郎(ねのじろう・川瀬/金子) → 教孝(のりたか・金子、藩士/勤王) E 3 5 8 5
- 子之助(ねのすけ・森) → 可澄(よしずみ・森もり/荒木、国学/歌) P 4 7 6 2
- 子日庵(ねのひあん) → 左静(させい、俳人) E 2 0 4 8
- 子日庵(2世ねのひあん) → 仏仙(ぶつせん・北海坊、俳人) D 3 8 3 7
- 子日庵(3世ねのひあん) → 一草(いっそう・時雨坊、俳人) B 1 1 5 8
- 子之松(ねのまつ・岡) → 扇歌(せんか・初世都々一坊、うかれ節) E 2 4 9 9
- 涅槃院(ねはんいん) → 亮英(りょうえい; 法諱・円空; 字、天台僧) G 4 9 4 8
- 寢惚先生(ねぼけせんせい) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3
- 3455 根松(ねまつ; 組連) ? - ? 江中期武蔵八王子の雑俳の組連、
取次; 1748「雲鼓評万句合」入、
取次例; [折々は河岸かへ流るゝ草履取ざりとり](万句合/前句; くつろいだ事々々)、
(殿様は吉原へ; 暇の出たお供達は相応に河岸へ/吉原西河岸か羅生門河岸; 百〜五十文)
- 3450 禰麻呂(ねまろ・大舍人部おとねりべ)?-? 755防人/下野国足利郡上丁、万葉廿4379、
[白波の寄そる浜辺に別れなばいともすべなみ八度やたび袖振る]
- 合歓園(ねむえん) → 吉輔(吉介よしすけ・西川にしかわ、国学者) D 4 7 8 0
- 合歓亭(ねむてい) → 椿軒(ちんけん・内山、歌/狂歌) K 2 8 6 8
- 合歓堂(ねむどう→ごうかんどう) → 沾徳(せんとく・門田・水間、俳人) 2 4 3 5
- 合歓堂(ねむどう→ごうかんどう) → 沾山(初世せんざん・内田、俳人) F 2 4 5 1
- 合歓堂(ねむどう→ごうかんどう) → 不言(ふげん・省、2世沾山門俳人) B 3 8 7 6
- 合歓堂(ねむどう→ごうかんどう) → 沾山(4世せんざん・内田、俳人) F 2 4 5 1
- 合歓堂(ねむどう→ごうかんどう) → 沾山(5世せんざん・杉原/菊地、俳人) F 2 4 5 5
- 合歓堂(ねむどう→ごうかんどう) → 沾山(6・7世せんざん・内田、俳人) F 2 4 5 7
- 合歓堂(ねむどう→ごうかんどう) → 鳳石(ほうせき・海老屋、俳人) C 3 9 0 3
- 合歓舎(ねむのや) → 祐根(すけね・伊東/藤原/弓削、藩士/水練) G 2 3 7 9

- 合歡舎(ねむのや) → 玄蛙(げんあ・小田/多賀庵3世、俳人) H 1 8 5 9
 合歡舎(ねむのや) → 豊年(とよとし・太田おた、医/本草/国学) R 3 1 3 5
 合歡麿(ねむのまろ・川喜田) → 政豊(まさとよ・川喜田かわきた、商家/国学) P 4 0 0 0
- 3459 煉方(ねりかた・油杜氏あぶらのとうじの、屋号;字の丸屋)?-? 江戸数寄屋橋河岸南鍋町の煉油商、
 狂歌;スキヤ連、1782若葉集・83万載狂歌集・85徳和歌後万載集・86吾妻曲狂歌文庫入、
 [はらはらといろはの茶屋へちりぬるは風や上野のやまけふこえし]
 (万載集;六冬/谷中のいろは茶屋の落ち葉)
- 3460 念阿(ねんあ;法諱) ? - ? 鎌倉後期歌人;閑月集入、
 勅撰2首;続千載(1651)新続古今(1761)、連歌;菟玖波集1句入
 [咲き残る老木の梅に忍ぶかな難波の春のむかし語を](続千載;雑1651/念阿法師)
- 3453 念阿(ねんあ;法諱) 1731? - 180170余歳 江中期三河の時宗僧;遊行上人に随い諸国行脚、
 下野喜連川の東漸寺住、伊豆三島に退隠、歌人;駿河府中(駿府)で歌の師匠/駿府に住、
 晩年駿府の安西寺25世;1801(享和元)70余歳没、山梨稲川「思旧漫録」記事入
- 念阿(ねんあ・観蓮社) → 雷雨(らいう;法諱、浄土僧/天台学) 4 8 1 7
 然阿(ねんあ/然阿弥陀仏) → 良忠(りょうちゅう;法諱、浄土宗第三祖) I 4 9 8 7
 念往(ねんおう・毛呂) → 義卿(よしなり・毛呂もろ、和漢学/仏典) F 4 7 8 5
 拈華(ねんか;号) → 秦岡(しんがい;法諱・白純、浄土僧/詩) O 2 2 0 6
- 3461 念海(ねんかい;法諱/初諱;念成ねんじょう、字;慧学、法名;超蓮社/倫誉/在阿)?-1812 信州出身浄土僧、
 桑名;可梁門/増上寺修業/1799増上寺54世、1811「日課念仏士女訓」、「放生報応章」著
- 拈花院(ねんかいん) → 泰広(やすひろ・加藤かとう、藩主/歌人) F 4 5 6 8
 年寛(ねんかん/としひろ?・飯田) → 恭雄(たかお・飯田いだ、神職/国学) V 2 6 5 7
 年魚(ねんぎょ・川島) → 春満(はるみつ・川島かわしま、商家/国学) J 3 6 9 9
 年魚(ねんぎょ・古森) → 厚茂(あつげ・古森こもり/秦/河崎、神職/歌) H 1 0 5 1
 鯰橋亭(ねんきょうてい) → 里仲(りちゅう・鯰橋亭、俳人) B 4 9 4 8
 年魚麻呂(ねんぎょまろ→あゆまろ) → 年魚麻呂(あゆまろ・若宮、万葉歌人) B 1 0 6 1
- 3462 然空(ねんくう;法諱・礼阿;法名、号;法光明院、阿部貞公男)?-1297 初め天台僧;永存門、
 1272鎌倉で浄土僧;良忠門/仁和寺西谷法光明院住;一流を立て一条派の祖となる、
 同門の良空(木幡派祖)/道光(三条派祖)と浄土宗布教、「深義集」「浄土要略鈔」「心行雑決」著
- 念空(ねんくう;字) → 道教(どうきょう;法諱・念空、浄土僧) C 3 1 8 6
 念卿(ねんけい・大槻) → 如電(じよでん・によでん・大槻おおつき、漢学者) U 2 2 7 2
 稔彦(ねんげん/としひこ?・近藤) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9
- 3463 念斎(ねんさい・原はら、名;善胤/善、敬仲男)1774-1820 双桂の孫、下総の儒者;父門/山本北山門、
 家督継嗣;下総古河藩儒員、1816(文化13)「先哲叢談」著(先人の伝記・逸話録);幕府に献上、
 林述斎の推薦で昌平黌に属し幕府の修史事業に参加;途次病没、
 1808「古河史」著、「賢相野史」「荻生徂徠伝」著、「日本儒林談」編、「洙泗微響」「鶴城史翰」編、
 「原念斎遺稿」、養嗣子;徳斎、
 [念斎(;号)の字/通称]字;公道、通称;三右衛門
- 3464 念斎(ねんさい・大縄おおなわ、名;久悠)1812-8271歳 羽後秋田藩士;江戸詰勘定奉行;藩政に関与、
 儒・詩;伊藤万年門、戊辰戦争に参戦反対したため維新後は不遇、石油採掘事業に失敗、
 帰郷途中栃木作山に客死、「念斎詩集」、
 [念斎(;号)の字/通称/別号]字;子誠、通称;織衛おえ、別号;檜川釣客/烏柏園うはくえん、
 法号;宗隆院
- 3465 年采(ねんさい・久保田くぼた)? - ? 幕末期但馬豊岡の和算家;内田五観門、
 図形計算に長ず、「球類通考」著、「円理称乎術」編
- 稔斎(ねんさい・白土) → 盛隆(もりたか・白土しらつち、藩士) F 4 4 5 8
 年山(ねんざん・安藤) → 為章(ためあき・安藤あんどう、国学/歌人) 2 6 5 4
 年山(ねんざん・百々) → 糾照(ただてる・百々どど、藩士/医者/歌) Y 2 6 3 8
 年治(ねんじ・敷田) → 年治(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学) N 3 1 4 3
 年実(ねんじつ・原田) → 年実(としざね・原田はらだ、国学者) W 3 1 1 6
 年秀(ねんしゅう・折田おりた) → 年秀(としひで・折田おりた、藩士/海防策) N 3 1 5 4

- 年充(ねんじゅう・加藤) → 年充(としみつ・加藤かとう/藤原、国学者) U 3 1 6 6
 然住軒(ねんじゅうけん) → 常典(つねのり・久志本/度会、医者/歌) D 2 9 1 3
 然住斎(ねんじゅうさい) → 釣月(ちょうげつ:号、歌人) I 2 8 0 5
 年緒(ねんしよ・業合) → 年緒(としお・業合なりあい、国学/歌人) V 3 1 3 9
- 3466 念成(ねんじょう;法諱・法名;円蓮院巧誉)?-1838 江戸の浄土僧;念海門/1813川越蓮馨時33世、
 1819増上寺学頭/31増上寺61世/大僧正、「釈迦誕生曼荼羅略解」著
 念成(ねんじょう) → 念海(ねんかい;法諱、浄土僧) 3 4 6 1
 念生院(ねんしょういん;号) → 実観(じつかん;法諱、天台大僧正) U 2 1 5 5
 念心(ねんしん;初法諱) → 得聞(とくもん;法諱、真宗本願寺派僧) L 3 1 4 8
 念祖(ねんそ・清川) → 玄道(げんどう・清川/多峯、医・儒者) L 1 8 9 7
 年宗(ねんそう・長瀬) → 年宗(としむね・長瀬ながせ、歌人) V 3 1 9 6
 年足(ねんそく)すべて → 年足(としたり)
 念典(ねんてん・立石) → 垂穎(たるひで・立石/藤原、庄屋/国学) T 2 6 0 3
- 3467 念々(ねんねん・岡沼おかぬま、通称;平吉、別号;惟念堂/惟然堂)?-? 江後期盛岡檜物師/江戸で俳諧師、
 晩年は磐城相馬に住、1845「三冬集」編/51「於もかけ集」編、「くれたけ集」「味雨集」編
 年々翁(ねんねんおう) → 雲峰(うんぼう・居初いそめ、俳人/戯作) B 1 2 2 2
 年々斎(ねんねんさい・寺井) → 稲葉(いなば・門田かどた/寺井、狂歌/国学) K 1 1 1 4
 年々斎花人(ねんねんさいかじん) → 太奇(太奇たいき・平沢、俳/狂歌) B 2 6 1 9
 然白老人(ねんはくろうじん・木原) → 桑宅(そうたく・木原きはら、儒者/藩士) K 2 5 3 7
 年八(ねんはち・高見) → 甚左衛門(じんざえもん・高見/大野、書肆/国学) O 2 2 6 0
 年繁(ねんはん・風間) → 年繁(とししげ・風間かざま、国学者/歌人) M 3 1 6 1
- 3468 鯰瓢子(ねんびょうし・桂下庵) ?-? 俳人、1702言水「一字之題」序
 年風(ねんふう・梅田) → 年風(としかぜ/ねんふう・梅田、絵師/俳人) M 3 1 1 5
 ネンブチカモイ(念仏神様) → 弁瑞(べんずい;法諱、浄土僧/アイヌ教化) B 2 7 3 1
 念仏庵主(ねんぶつあんしゅ) → 弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0
 念仏独湛(ねんぶつどくたん;浄土経) → 独湛(どくたん;道号・性瑩;法諱、黄檗僧) L 3 1 2 0
 念夢(ねんむ・無尺舎主人) → 下物(かぶつ・山川、俳人) F 1 5 7 9
 年名(ねんめい・南淵) → 年名(としな・南淵みなぶち朝臣、廷臣/漢学) N 3 1 0 8
 念誉(ねんよ・称蓮社) → 玄夢(げんむ;法諱、浄土僧/歌人) O 1 8 3 5
 年覧(ねんらん・石川) → 艇斎(ていさい・石川、儒者) 3 0 8 7
 然蓮社(ねんれんしゃ) → 文雄(もんのおう・洞誉、浄土僧/語学)
 然蓮社源立良智(ねんれんしゃげんりゅうりょうち) → 道残(どうざん;法諱、浄土僧) E 3 1 6 9
 拈蓮社香誉信阿(ねんれんしゃこうよしんあ) → 祐海(ゆうかい;法諱・愚蒙、浄土僧) 4 6 9 8
 念蓮社貞誉自然(ねんれんしよじょうよじねん) → 了也(りょうや;法諱、浄土僧) J 4 9 5 3